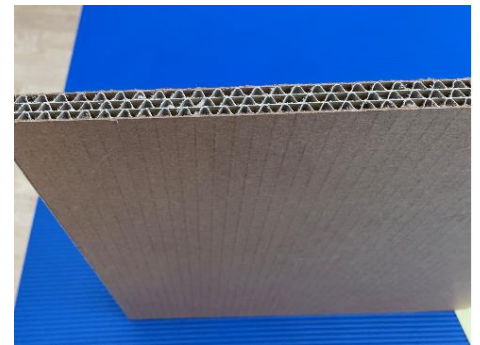


トライウォールを使った環境設定について

トライウォールとは

3層構造のダンボール素材で、アメリカでコンパネ（耐水ラワン合板）の代わりに開発された軽量で丈夫なダンボール素材です。加工は、カッターで行えます。（3層なのでパワーカットには力が必要）

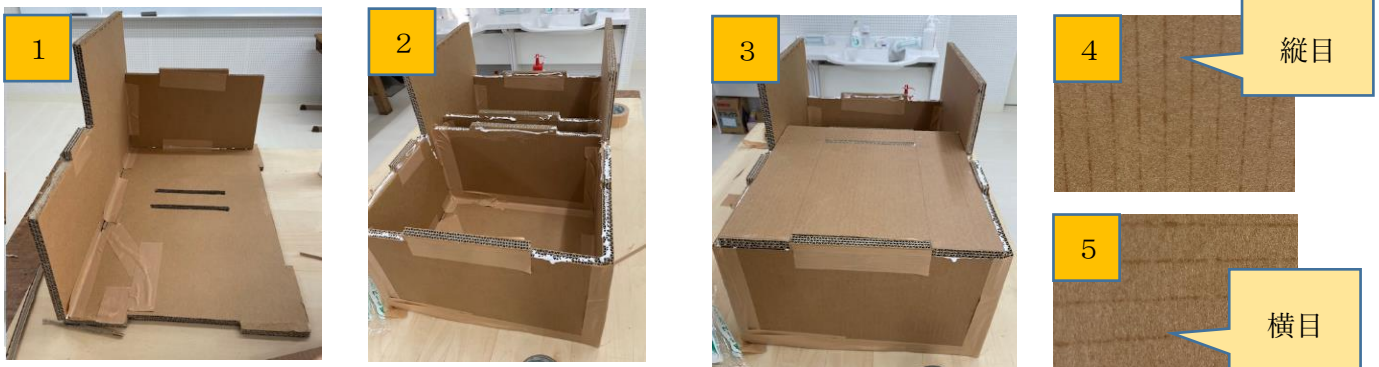
自立活動担当は、この素材を使って様々な環境設定をしています。姿勢保持具では、よつ這い保持具、側臥位保持装置、ベンチ椅子などを作成できます。また、仮設校舎になったことで新たな環境設定（段差解消のスロープ、教材棚）をしました。



よつ這い保持具の作り方

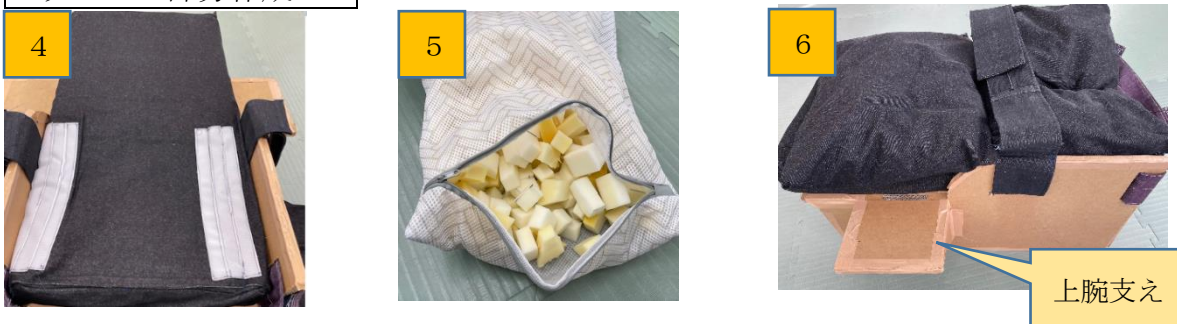
よつ這い保持具は、トライウォールでつくる土台の部分と実際に身体を支えるクッション部分に分けられます。土台部分は、対象となるケースの身体のサイズを図り、トライウォールを切り出します。最近では、細かい部分の切り出しをカッターで行い、直線を長くカットする部分は、丸鋸盤を利用しています。次のように組み立てを行います。

よつ這い保持具土台部分（トライウォール）組み立て



- 1：接着には、木工用ボンドを使う。布テープを使うことで、固定力が高まります。
- 2：トライウォールの縦目、横目をみて組み立てると良いです。ただし、材料の無駄を出さないようにします。
- 3：最後に上腕支えを取り付ければ、土台の完成です。

クッション部分作成



- 4：3の上にカバーを付けたウレタンブロックを置きます。できれば、クッション部分の接着を考え面ファスナーの縫い付けを行うと良いと思います。
- 5：ウレタンをカットし、洗濯ネットに入れます。
- 6：カバー、ベルトを取り付け完成になります。

よつ這い保持具使用の様子



側臥位保持具使用の様子



箱椅子



教材棚（木材と組み合わせ）



簡易スロープ（図書コーナー）



簡易スロープ（自活室）



いろいろな姿勢をとる必要性について 【下記の表は本校整形外科医より研修会での情報提供】

右の表は、4種類ポジショニングによる、身体の変化について表示されています。学校での児童・生徒の姿勢保持の様子をみると、概ね座位で授業を受け、休憩時には、仰臥位（あおむけ）で過ごしている様子が多くみられます。いろいろな姿勢を取るには、クッションや装置など道具が必要です。ポジショニングを適切によることは、身体の2次障害を進行させない手立てになります。

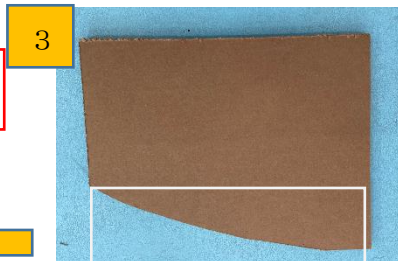
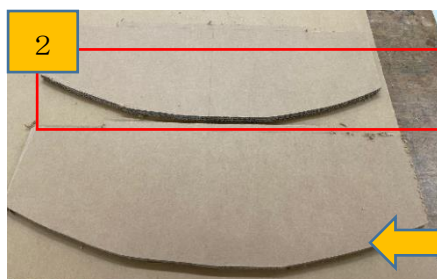
姿勢	筋緊張	脊柱変形	分泌物の喀出	呼吸運動
仰臥位	亢進	やや増強	やや困難	困難
座位	やや亢進	増強	やや困難	良好
側臥位	やや亢進	向き次第	向き次第	普通
腹臥位	低下	やや軽減	容易	良好

姿勢保持具給付の実情

本校の児童・生徒は、日常的に車いすを使用して学校生活を過ごしています。使用している車いす（補装具）は、法に基づいて支給されます。補装具制度の中では、支給される種目が決まっていて、よつ這い保持具や側臥位保持具などは、特例制度での申請となるため、医療的にみて特に必要であると認められないと作れません。しかし、学校での生活をみると必要な児童・生徒が多くみられます。そういった事情を踏まえて、学校では、必要な用具を手作りしたり、購入したりして、身体を取り組みを行いやすい環境を整えています。

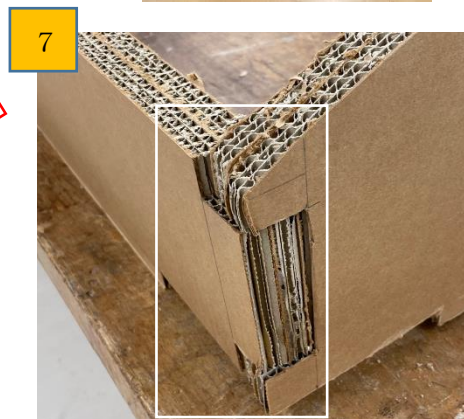
トライウォールを使った環境設定について2 (バランスボード作製編)

【バランスボードの駆動部づくり1】



・はじめに、写真1の白枠部分のカーブを作製します。作り方は、写真3のような治具をつくり、写真2の赤枠部分のカーブを作製します。治具でカットするラインを引いたら、カッターか電気工具のジグソーでカットします。そして写真2の2枚を木工ボンドで張り合わせます。

【バランスボードの駆動部づくり2】



- ・写真2で張り合わせた部品は、写真6の赤枠部分になります。この赤枠部分のカーブがバランスボードの動きに必要な形状となります。白枠の部品と組み合わせることで、安定します。
- ・写真7は、赤枠の部品と白枠の部品をほぞ組みをします。
- ・写真8は、バランスボードの天板に溝を入れ、写真7を合わせ、木工用ボンドと布テープで固定し完成させます。
- ・写真7と写真8を合わせたものに6ミリのシナベニアを張り合わせ完成させます。